

ひとむれ

二〇一四年九月号

卷頭言

校長 仁原正幹

毎月一日付けで発刊してきた本誌『ひとむれ』は、今月号で九〇三号を数えることになりました。日曜礼拝の中で月に一度発表される子ども達の作文と校長の講評を掲載した『朗読会』とセットにして、毎月四一五名の皆様にお送りしています。

この『ひとむれ』の創刊は今から八四年前の昭和五年六月に遡ります。当初は北海道家庭学校の生徒の自治会「一群会」の機関誌としての性格を有するものであり、誌名も『一群』と漢字で表記されていました。その後誌名がローマ字表記となったり、漢字に戻ったりした経過がありました。昭和三〇年の一月号から今日のひらがな表記の『ひとむれ』となっています。

現在当校の書庫には創刊号からのバックナンバーが全部大切に保管されており、先輩方の歴史と伝統を大事にされてきた精神と資料の収集・保存にかける熱意に驚かされました。ただし、何しろ戦前のことですから、藁半紙に謄写版刷りということ、紙が変色したり、字がかすれてしまったりで、判読が難しい部分も所々あります。

毎月刊行の『ひとむれ』は現在でも手書

き・手作りの味わいを保ち続けています。一方で周年記念号などページ数の多い特集号については活字で印刷製本されており、趣を異にしていますが、これら特集号についても通巻の号数に数えるのが習わしのように、九月二四日の創立一〇〇周年記念式の際にお配りする『創立一〇〇周年記念誌・ひとむれ』は、通巻九〇四号になる予定です。

通巻の号数のことを調べてみますと、創

刊後一四号で何故か一旦リセットされ、その後一五九号まで巻を重ねたものが昭和一二年に戦争の影響で休刊となり、昭和二四年の再刊の時に再度リセットされてまた第一号から始まっているので、今月号の通巻号数は一〇七六号というのが本当のところのようです。